

# 「気象病」の仕組みと対処法 痛み・うつ・めまい ほか

- 講師：名古屋大学教授、愛知医科大学痛みセンター医師  
佐藤 純
- 開講日：第3水曜日 15:30~17:00
- 受講料：3ヵ月（3回）分 6,000円+税

痛み、うつ、めまい、ぜん息など、多くの疾患が天気や気象変化の影響を受けることが知られていて、総称して「気象病」と呼ばれています。

天気と病気の関係とメカニズムを長年の研究で明らかにし、愛知医科大学・痛みセンターでは専門的な治療を行っている講師が、これまでに明らかにした気象病の仕組みと、特に痛み、うつ、めまいの対処法などをお話しします。4月から始まる3ヵ月講座です。



## 第1回（4月20日） 天気と痛み

気象変化の影響を受けて発症する病気は総称して「気象病」と呼ばれ、昔から経験的に知られています。痛みも「天気が悪くなると古傷が痛む」などと言われるように、日々の気象・気候に大きく左右されます。これまで、何となくとしか捉えられていなかった天気と痛みの因果関係についてお話しします。



## 第2回（5月18日） 天気とうつ症状、 何となく不調

痛みの他にも、うつ症状は天気の影響を受けやすいものとして知られています。以前から、気象の変化がうつ病の発症と進行に影響を与えることはよく知られており、抑うつ症状に季節性があることも報告されています。ところが、この問題を実験的に実証しようと試みた研究はこれまでほとんど行われていません。第2回は「うつ症状と何となく不調」に注目し、これまでの研究で分かった天気との関係についてお話しします。

## 第3回（6月15日） 気象病の対策

気象病のメカニズムはいつたいなんでしょうか。講師は気象と病気の因果関係について、20年間の研究で明らかにしてきました。さて、最終回は、第1回、第2回でお話しした発症のメカニズムをもとに、実践している対策法に迫ります。



### 【講師プロフィール】佐藤 純（さとう・じゅん）

医師／医学博士。名古屋大学教授、愛知医科大学学際的痛みセンター医師（非常勤）。1983年に東海大学医学部を卒業後、同年から名古屋大学大学院研究科で疼痛生理学、環境生理学を学ぶ。1987年、米・ノースカロライナ大学に留学し慢性疼痛と自律神経系の関係について研究を行う。1991年より名古屋大学に在籍。2005年より愛知医科大学学際的痛みセンターで、日本で唯一の天気痛外来を開設。気圧医学の第一人者。日本疼痛学会理事、日本運動器疼痛学会理事、日本ペインクリニック学会評議員、日本生理学会評議員、日本宇宙航空環境医学会評議員、日本生気象学会幹事等を兼任。

詳細は右記フリーダイヤルまでお問い合わせください。

- ※内容・日程は変更になる場合がございますご了承ください。
- ※講座により募集締切日が異なりますので、お問い合わせください。
- ※お申し込みの人数によっては、開講中止となる場合もございます。予めご了承ください。

中日文化センターへ初めてご入会される方は、別途入会金（3,500円+税）が必要です。

名古屋・栄 中日文化センター  
Culture & Communication 中日新聞  
フリーダイヤル  
0120-53-8164 10:00~19:00  
日曜日は17:00まで  
〒460-0008 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4F